

いま、語りつぐ

平和への願い IX

被爆クスノキ二世記念植樹式

並びに

平和特別講演会の記録



長崎平和祈念像



山王神社の被爆クスノキ

宝 塚 市

宝塚市教育委員会

★★★★★ 発刊にあたって ★★★★★

宝塚市は、平成元年（1989年）3月に非核平和都市宣言を行い、平成6年（1994年）8月には平和モニュメント「火の鳥」像を建設し、さらに平成15年（2003年）9月には核兵器廃絶平和推進基本条例を施行し、これらの趣旨に基づき毎年様々な平和施策を進めています。

非核平和都市宣言20周年に当たる平成21年（2009年）には、平和を願う諸都市との連携を深めるため、平和市長会議（現平和首長会議、会長市：広島市）および日本非核宣言自治体協議会（会長市：長崎市）に加盟しました。

これらの平和を目指す組織への加盟を記念して、昨年度の平成24年（2012年）11月には、日本非核宣言自治体協議会々長の田上富久長崎市長をお招きして、被爆地ナガサキの平和の象徴で長崎市の天然記念物に指定されている被爆クスノキの種から育てた被爆クスノキ二世の記念植樹式並びに平和特別講演会を開催しました。

講演会では、多くの市民参加のもと田上市長による平和特別講演と野本立人さん 笥千佳子さんご夫妻による平和の歌ミニコンサートが行われ、平和への共感の輪が広がりました。

ここにその被爆クスノキ二世記念植樹式並びに平和特別講演会の様子を「いま、語りつぐ 平和への願い IX」としてまとめました。市民の皆様とともに、この冊子を通して戦争や核兵器のない平和な社会の構築を願い、命の尊さ、平和の大切さの認識をさらに深め、後世に伝えてまいりたいと思います。

☆☆☆☆ ☆☆☆☆

目 次

1	発刊にあたって	1	頁
2	被爆クスノキ二世記念植樹式記録	2	頁
3	平和特別講演会記録	4	頁
	第1部 平和の歌ミニコンサート	4	頁
	第2部 平和特別講演	11	頁
	用語説明	34	頁
4	非核平和都市宣言文	36	頁

★★★ 被爆クスノキ二世記念植樹式 記録 ★★★

- 【と き】 平成24年（2012年）11月3日（土）午前11時～12時
【ところ】 末広中央公園
【参 加】 中川智子宝塚市長、田上富久長崎市長、宝塚市議会正副議長、
宝塚市原爆被害者の会代表、親子市民代表2組ほか市民や団体約100
人参加

☆☆☆☆ ☆☆☆☆

被爆クスノキ二世とは……

昭和20年（1945年）8月9日、長崎市に人類初のプルトニウム型原子爆弾が投下され、死者約7万4千人、負傷者約7万5千人、当時の長崎市の人口の3分の2が原子爆弾の犠牲となりました。

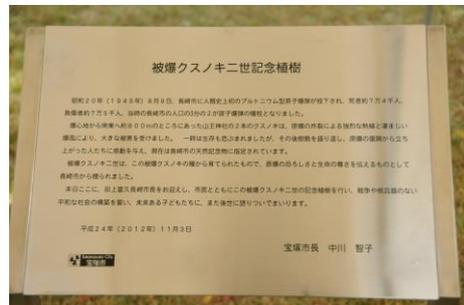
爆心地から南東へ約800mのところにあった山王神社の2本のクスノキは、原爆の炸裂による強烈な熱線と凄まじい爆風により、大きな被害を受けました。一時は生存も危ぶまれましたが、その後樹勢を盛り返し、原爆の復興から立ち上がった人たちに感動を与え、現在は長崎市の天然記念物に指定されています。

被爆クスノキ二世は、この被爆クスノキの種から育てられたもので、平和を願う多くのまちで平和のシンボルとして植樹されています。今回の植樹式の苗木も、原爆の恐ろしさと生命の尊さを伝えるものとして長崎市から贈られたものです。



植樹する田上市長と中川市長

植樹式の様子



★★★ 平和特別講演会 記録 ★★★

- 【と き】 平成24年（2012年）11月3日（土）
午後2時～4時
- 【ところ】 宝塚市立文化施設 ソリオホール
- 【参 加】 市民約120人参加

☆☆☆ 第1部 平和の歌ミニコンサート ☆☆☆

- 【内 容】 出演 野本 立人さん（バリトン）
笥 千佳子さん（ピアノ）
- 曲目 「長崎の鐘」 「さとうきび畑」
「とむらいのあとは」 「花は咲く」

【バリトン歌手・合唱指揮者 野本 立人さん プロフィール】

東京藝術大学卒業。同大学大学院修士課程修了。主にコンサート歌手として多くの演奏会にソリストとして出演するほか、これまでに7回のソロ・リサイタルを開催。宗教曲やドイツ・リート（歌曲）を主要なレパートリーとする一方、日本語の美しい響きとリアリティにこだわり、さまざまな日本語の歌に挑戦している。

合唱指揮者としての顔も持ち、NHK全国学校音楽コンクール課題曲「手紙」（アンジェラ・アキ）、YELL（いきものがかり）等の放送初演に携わる。21世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」幹事。兵庫教育大学大学院准教授。



【ピアニスト 笥 千佳子さん プロフィール】

仁愛女子短期大学音楽科及び専攻科卒業。主に声楽、器楽、合唱等の伴奏者として活躍。その豊かな音楽性と確かなテクニックにより共演者の厚い信頼を得ている。

また、最近女優の竹下景子さんらと共に行っている小児がんの子どもたちのためのチャリティ公演「ごえんなこんさあと」や小児病棟にミニ音楽会を届ける「音楽とどけ隊」の活動などを通じて、社会に貢献する音楽のあり方を模索している。音楽で病気の子どもを支援するNPO法人朴の会副理事長。



「平和の歌ミニコンサート」

「長崎の鐘」

作詞：サトウ ハチロー

作曲：古関 裕而

こよなく晴れた 青空を 悲しと思う せつなさよ
うねりの波の 人の世に はかなく生きる 野の花よ
なぐさめ はげまし 長崎の あゝ 長崎の鐘が鳴る

召されて妻は 天国へ 別れて一人 旅立ちぬ
かたみに残る ロザリオの 鎖に白き 我が涙
なぐさめ はげまし 長崎の あゝ 長崎の鐘が鳴る

つぶやく雨の ミサの声 たたえる風の 神の歌
輝く胸の 十字架に ほゝえむ海の 雲の色
なぐさめ はげまし 長崎の あゝ 長崎の鐘が鳴る

こころの罪を うちあけて 更けゆく夜の 月すみぬ
貧しき家の 柱にも 気高く白き マリア様
なぐさめ はげまし 長崎の あゝ 長崎の鐘が鳴る

(拍手)



本日は、このような場にお招きいただきまして本当にありがとうございます。野本立人です。それからピアノの笥千佳子です。

ただ今歌いました曲は、もう皆さんご存知の「長崎の鐘」。この後、田上市長が、長崎市長がお話しをしてくださいますけれども、歓迎の気持ちと、それから尊厳の心を込めて歌わせていただきました。私自身も戦後生まれの世代で

ありますので、正直言って日本の厳しかった戦争のこととかは、実際にはもちろん知らない訳なんですけれども、このような機会を通じて、もちろん、こういうことで勉強を重ねて、そして知って、知っていることを人に伝えていかなきゃいけないという思いをずっと持ってきました。このような機会にもう一度、自分の気持ちを整理しながら、曲を選び、そして歌を歌うってということを考えるきっかけをいただきました。そのことにすごく感謝

しています。

「長崎の鐘」という曲は、もう説明の必要はないかもしれませんが、長崎の原爆の時に、奥様を亡くされた永井隆さんというお医者様が手記を書かれて、その手記をもとにサトウハチローさんが詞を書き、そして古関裕而さんが曲をつけられました。その後、その歌がとても有名になって映画にもなった。その映画でたくさんの方がご存知になったということもあります。そういう作品でした。

次に歌います曲は、今度は、沖縄の方に目を移して、「さとうきび畑」という歌を歌いたいと思います。日本では、広島・長崎の原爆、それから日本国内いたる所に空襲があってたくさんの方が、軍隊に行った人じゃなくても、兵隊に行った人じゃなくてもたくさんの方が亡くなってしまいました。それからまちが建物が壊されてしまいましたけれども、そういうことがありました。

その中でも、沖縄は本当に地上戦といって、戦争がそこで行われて、しかも沖縄は当時、日本の国の中で少し差別的な待遇を受けていたということもあり、非常に厳しい戦闘が行われて、市民の方がたくさん亡くなりました。もちろん、そこに軍隊として行った日本の兵隊さんたちもたくさん亡くなりました。20数万人が



沖縄で、アメリカ軍の人たちも含めて亡くなったというふうに伝えられています。そのことに思いをはせて、寺島尚彦さんという方が沖縄を訪れた際に、さとうきび畑に立って、その時に現地を案内してくださった方が、まだ日本復帰前だったという話なんですけれども、その時にこのさとうきび畑の下にもまだたくさん掘り出されていない人骨が埋まっているんですよというお話しを聞いて、それで衝撃を受けて、そのことをちゃんと伝えなきゃいけない私は、というふうに思われて、自分で詞を書き、そして曲を作ったのが「さとうきび畑」です。それでは歌いたいと思います。どうぞお聞きください。

(拍手)

「さとうきび畑」

作詞・作曲：寺島 尚彦

ざわわ ざわわ ざわわ 広い さとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が 通りぬけるだけ
今日も 見わたすかぎりに 緑の波が うねる
夏の ひざしの中で

ざわわ ざわわ ざわわ 広い さとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が 通りぬけるだけ
むかし 海の向こうから いくさが やってきた
夏の ひざしの中で

ざわわ ざわわ ざわわ 広い さとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が 通りぬけるだけ
あの日 鉄の雨にうたれ 父は 死んでいった
夏の ひざしの中で

ざわわ ざわわ ざわわ 忘れられない 悲しみが
ざわわ ざわわ ざわわ 波のように 押し寄せる
風よ 悲しみの歌を 海に返してほしい
夏の ひざしの中で

ざわわ ざわわ ざわわ 風に 涙はかわいても
ざわわ ざわわ ざわわ この悲しみは 消えない

(拍手)

私自身 実は、沖縄の島とかとても好きで、何度も訪れて
います。その時に、最初に訪れた時に、案内して下さった
方が、僕の音楽関係の先輩だったんですけれど、その方が
いねいに色々な所を連れて行ってくださいました。沖縄の歴史
を考えたり、それから戦争のことを考えたり、それから沖縄
の観光の名所であるということも考えたり、色々なことを
考えるきっかけをくださいました。その時に色々なことを感
じたんですけれども、その中でもやはり、ああ戦争の苦しみ
ってというのはたくさんあったんだなあということが一番衝
撃的で、その後、本当に一年ぐらい、何だかいつも沖縄の風
景がフラッシュバックするんですけれども、その中にはいつ
もなんか悲しい気持ちがあって、そういうところから、こうい
う歌を歌うことに、実は踏み込めるまでに時間がかかったん
ですけれども、今ようやく、こういう歌を自分の心として歌
えるようにだんだんなってきました。やっぱり自分が経験して
いないことなので、そのことに本当に寄り添うにはすごく時間
がかかるんだなあということを今感じています。ありがとうございました。





このあと歌います曲、本当に今回、この講演会の前は、皆さんと一緒にこういう平和を考えながら歌を歌うという時間をいただいたときに、どんな曲を歌えたらいいのかなあと、すごく悩みました。

戦争の反対といったら、戦争反対だから反戦という言葉も 実はあるんですけども、それを何か大声でいうこと、ではなくて、何か自分の気持ちに納得がいくお示しの仕方ができればいいなあと考えてきました。その中で本当は、ソロ用の歌ではないんですけども、合唱曲です。私、合唱の指揮もたくさんやっていますので、その関係で知っている曲の一つだったんですけども、木島始さんという詩人の方が詞を作られまして、そして信長 貴富さんという方が、これはお若い作曲家ですけども、その方が曲をつけられた「とむらいのあとは」という歌です。

木島始さんは、ご自身の戦争の体験も含めて、非常にその戦争というものに対して、反対の立場をもちろんとっておられ、国や社会というものが、その戦争というものに、ざーっと流れていくということに対する警戒とか懐疑心とかそういうものを、ずっと持ち続けておられた方でした。その中で作られた詞、その中で選びとられた言葉というものを歌にしています。銃よりも人をしびれさす歌、そういうものが存在していればという、そういう思いがここに込められています。どうぞお聞きください。

木島始さんは、ご自身の戦争の体験も含めて、非常にその戦争というものに対して、反対の立場をもちろんとっておられ、国や社会というものが、その戦争というものに、ざーっと流れていくということに対する警戒とか懐疑心とかそういうものを、ずっと持ち続けておられた方でした。その中で作られた詞、その中で選びとられた言葉というものを歌にしています。銃よりも人をしびれさす歌、そういうものが存在していればという、そういう思いがここに込められています。どうぞお聞きください。

(拍手)

「とむらいのあとは」

作詞：木島 始

作曲：信長 貴富

たおれたひとの たましいが
うたえなかったもの ゆめみよう
銃よりひとをしびれさす ひとをしびれさす 歌のこと
銃よりひとをしびれさす歌 しびれさす 歌のこと
ひきがね ひけなくなる 歌
ひきがね ひけなくなる 歌のこと
ゆめみよう ゆめみよう

(拍手)

ありがとうございます。願いという言葉が一番ぴったりくる歌かなと思って選びました。

それでは最後になりますけど、先程、中川市長の言葉にもありましたけれども、昨年の3月11日に大変大きな地震がありまして、津波が来まして、そして原発のことがありましてたくさんの方が今も苦勞されています。私たちの周りの音楽の世界でも、そういうことを支援しようということで一生懸命色々なことをやる動きがあります。その中でやっぱり音楽を作って、そしてそれを、こう一つの象徴にして、そのもとに色々な人が力を合わせようという、そういう動きがありますけれども、NHKさんがそういうプロジェクトの一つをやっておられて、それが「花は咲く」という作品を作って、それはテレビの映像でも、特に被災地にゆかりのある方々がかわるがわる順番に花を持って現れて、そして一節ずつ歌っていらっしやる映像がよく流れていますけれども、その「花は咲く」という歌を、最後に歌いたいと思います。岩井俊二さんという映画監督もされておられる方が詞を作って、菅野よう子さんが作曲をされました。「花は咲く」です。どうぞお聞きください。



(拍手)

「花は咲く」

作詞：岩井 俊二

作曲：菅野 よう子

真っ白な雪道に 春風香る
私は なつかしい あの街を思い出す
叶えたい 夢もあった
変わりたい 自分もいた
今はただ懐かしい あの人を思い出す

誰かの歌が聞こえる 誰かをはげましてる
誰かの笑顔が見える 悲しみの向こう側に

花は 花は 花は咲く いつか生まれる君に
花は 花は 花は咲く 私は何を残しただろう

夜空の向こうの 朝の気配に
私はなつかしい あの日々を思い出す
傷ついて 傷つけて
報われず ないたりして
今はただ愛おしい あの人を思い出す

誰かの想いが見える 誰かと結ばれてる
誰かの未来が見える 悲しみの向こう側に

花は 花は 花は咲く いつか生まれる君に
花は 花は 花は咲く 私は何を残しただろう
花は 花は 花は咲く いつか生まれる君に
花は 花は 花は咲く 私は何を残しただろう

花は 花は 花は咲く いつか生まれる君に
花は 花は 花は咲く いつか恋する君のために

(拍手)

どうもありがとうございました。



「長崎の鐘」「さとうきび畑」「とむらいのあと」 「花は咲く」
日本音楽著作権協会 (出) 許諾第1401471-401号

☆☆☆ 第2部 平和特別講演 ☆☆☆

【内容】 テーマ 「Peace from 宝塚」
(ピース・フロム・宝塚)

講演 田上 富久 長崎市長

【長崎市長 田上 富久さん プロフィール】

昭和55年(1980年)九州大学法学部卒業。同年に長崎市役所に入所。観光部観光振興課主幹、企画部統計課長などを歴任。

平成19年(2007年)4月の長崎市長選挙では、立候補された伊藤一長さんの不幸な事件が起こり、急遽立候補し、見事初当選。その後の平成23年(2011年)の市長選挙でも見事再選される。

市長に就任後は、日本非核宣言自治体協議会々長として、また、平和市長会議(現平和首長会議)副会長として国内のみならず世界中で被爆地長崎を代表して核兵器廃絶・世界の恒久平和を語り続ける。



会場の様子

平和特別講演 「Peace from 宝塚」

皆様こんにちは。ただ今ご紹介いただきました長崎市長の田上と申します。今日、こういう素晴らしい企画をしていただいた宝塚の皆さんに、まず心から敬意を表わしたいと思います。

今、野本立人さんと笈千佳子さんのご夫婦の歌がありまして、私も前の席で聞かせていただいて、本当に心洗われる思いがしました。どの曲にも、本当に思いを込めて歌っていただいて気持ちが



伝わってきましたけれども、最後の「花は咲く」という歌の歌詞の中に、花は花は花は咲くという言葉の間に、いつか生まれる君に私は何を残しただろうという歌詞がありましたけれども、本当に聞きながら、原爆とかそういうものが無い世界、そしてみんなが助け合う世界というのを残せたらどれ程いいだろうということを思いながら聞かせていただきました。

きのうの夕方に宝塚に着いたんですけれども、それからまだ1日経っていないんですけれども、本当に色んなことを感じさせていただいています。最初に着いた時に車で移動しながら思ったのは、落ち着いた雰囲気のみちだなあと。緑もまちの中であって、公園の面積でいうと、先ほど市役所の方にお聞きすると、面積がそんなに多い訳ではないということだったんですけれど、周りの山、それからまちの中に色んな会社が植えられているということも含めて、印象で言うと本当に落ち着いたとてもいい、市民の皆さんのセンスがうかがわれるようなまちだなあと感じました。それから、その後に感じたのが女性が元気なまちなんだ、歌劇団で女性のイメージはありましたけども、それはすごく強く感じて、それはとてもいいことだと思っています。というのは、長崎もけっこう元気な女性が多いんですけれども、今の時代というのは、私は、女性の時代とよく言うんですけれども、それは故なく女性の時代と言っている訳ではなくて、今ずっとつき進んできた時代の流れの中で、これからもこの方向で進むのか、あるいは少し方向を変えて、本当はどっちに行ったらいいんだろうということを考える時代に至って、その時に色んな制度を上手に使ったりするのは男性の方がけっこう得意かも知れないんですけれども、さて、ゼロベースでどっちに行くかっていう時には、どちらが好きとか、どちらが心地いいとか、どちらが気持ちいいとか、そういったとても感性に近いものが今、非常に大事な時代を迎えていて、その時には女性の意見を聞く、女性の感覚を聞くということが非常に大事になってきているという気がします。その意味で今、女性の時代と言われていることは、決して故がないことではなくて、私もよく市役所の中で色んな委員会に、テーマによって、特に、これは



りがとうございます。またお越してください。それから長崎のイメージでいうと、色んなイメージがあると思うんですけども、これは食べ物で左上がチャンポンで、右下がカステラで、その他に右上がかまぼこで、その横がしっぽく料理、左側に角煮まんじゅうがあります。こういった食べ物が非常においしいまちでもあり、海のもの、山のもの、それからエキゾチックな食べ物も多いまちで

す。それから、まち自体もエキゾチックで、右上がグラバー邸、それから左上が中華街の門で、真ん中にあるのがランタンフェスティバルという、中国の旧正月のお祭りで、今年は2月の10日から開かれますね。左下は長崎の夜景です。つい先日、世界新三大夜景に選ばれました。それから右下がおくんちという10月の7・8・9日に開かれるお祭りに登場する龍おどりですね。こういった色んな異国情緒豊かな文化が残っているまちなんです。



それからもう一つ、これからお話する平和の側面ですと、右上に平和祈念像がありまして、左上は原爆落下中心地です。地面に同心円が描かれていますけれども、この同心円の中心の真上の500mのところでは原爆が炸裂したという場所です。それから真ん中が、これは山王神社、今日植えたクスノキがある神社の鳥居、半分欠けている鳥居です。それから左下が原爆資料館、右下が平和の泉という場所です。こういった長崎には色んな側面がある訳ですけども、今日、その中から特に、私たちがずっと声を枯らすようにして叫び続けている、訴え続けている核兵器をなくそうという部分についてのお話をさせていただきます。

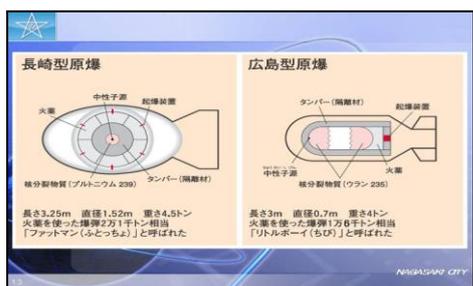
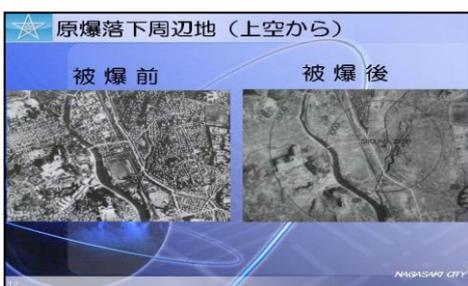


1945年8月9日長崎で起きたこと

1945年8月9日、67年前に長崎で何が起きたか、ということなんですけれども、これは戦前の長崎駅です。今の駅とは随分違うんですけども、前にいっぱい古いタイプのタクシーが停まっています。色んな貿易であったり、造船であったり、炭鉱であったりと、栄えたまちでした。



これは、ちょっと見にくいと思いますが真ん中の一番上のところに、二つちょっと白っぽくなっている高い建物、左上に塔が二つ建っている建物が見えると思います。あれが浦上天堂で、これは戦前の浦上で、浦上というのは江戸時代には隠れキリシタンの皆さんがたくさん住んでいた地区で、200年以上にわたってずっと隠れたままだったんですね。そして、江戸時代の終わりになって大浦というところに天主堂ができて、その時にこの住民の信者の人たちの何人かが天主堂を訪ねて行って、そこにいた神父さんに私たちの心はあなたと同じです、というふうに告白をするんですね。要するに200年以上もずっと禁教令が日本にはかぶさっていますから、もう日本には信者はいないと思われていたのが、信者はいたということで、信徒発見というこのビッグニュースが世界をかけめぐった。それが再来年で150年になるんですけども、そういう信者さんたちがたくさんいたまちですね。その意味では踏み絵、ご存知だと思いますけども色んな形で悲しいつらい物語をたくさん持っている地区でもあります。この地区にキリスト教が許されるようになって、教会が建つようになって浦上天堂という当時、東洋一の大きさを誇った



教会がありました。その浦上地区の真上に、1945年8月9日11時2分に原子爆弾が落とされました。上空500mで炸裂をしました。そしてその時、何が起きたのか、その後で何が起きたのかということですが、これは当時の正に浦上のあたりの航空写真ですね。これはもちろん米軍が撮ったものです。今ちょうど真ん中のところに川が流れていて、その右のところにグランドみたいな場所が見えていますけども、その左右あたりが今の平和公園といわれるところの辺りで、平和祈念像が建っているところです。これが、この上空に原子爆弾が落とされてどうなったかという、これは絵ではなくて写真なんですね。要するに何もなくなってしまったという事です。まちが消えてしまったという状態になりました。この二つを並べてみると一目瞭然だと思いますけども。当時の長崎型原爆、今よりもうんと威力が小さい。現在の核兵器の何百分の一といわれるぐらいの大きさの原子爆弾が、どれぐらい強い力を持っていたかという事がよく解る比較写真です。もうちょっとゆっくり後で見えていきますけれ

ども、この時に使われた原子爆弾というのは、左側が長崎型原爆、右側が広島型原爆といわれていますけれども、簡単にいうと、長崎型はプルトニウム型の原子爆弾、広島はウラン型ということで、どちらかという広島の方の方が構造が簡単でした。長崎のプルトニウム型というのは、少し構造が複雑なんですね。その分大きくもなっています。で、威力自体は長崎の方が大きかったんですが、一つは、長崎はまちの中に山が、小さい小山がいっぱいあるような地形なので、陰になる所が多かったということがありますし、また、実は長崎の原子爆弾というのは当初、北九州の小倉に落とすという目標を定めて飛行機、B29が飛び立ちました。ところが、雲が多くて下が見通せずに諦めて、次に第二の目標であった長崎に行った。ところが長崎も雲に覆われていた。しかし燃料はもう無いということで、それが本来の元々長崎の中での目標地点ではなかったんですけれども、その雲の

★ 原子爆弾による長崎・広島被害の比較		
	長崎市	広島市
爆発力 (TNTリットル当り)	TNT火薬21ktの 爆発力に相当	TNT火薬の16ktの 爆発力に相当
重さ	4.5トン	4.0トン
長さ	3.25m	3.0m
直径	1.52m	0.7m
当時の人口	約240,000人	約350,000人 (当市内にいた人)
死者数(推計)	73,884人	140,000人(±1万人)
負傷者数	74,909人	79,130人
被災者計	148,793人	219,130人(±1万人)

合い間に見えた地区に原子爆弾を落とす訳ですね。そういう意味で、一番人口の多かった地区ではないということも影響しているとは思いますが、長崎でこの時の死者数というのは、下から三つ目の枠の、広島の半分ぐらいの死者の数となっています。その原子爆弾、核兵器の力というのは、どういう力を持っているのかというと、一般的に

分かりやすく言う時には、熱線と爆風と放射線というふうな言い方をします。その中の、まず熱線ですけれども、これは谷口稜暉さんという、ちょうどその時に自転車で郵便配達をされていて被爆された方ですけれども、今、被爆者団体の代表をさせていただいています。背中が正にこんな状態になって、そしてうつ伏せのまま一年九ヶ月、あお向けに寝ることはできませんでした。一年九ヶ月後によく立ち上がって、その時にとっても解放された気持ちになったのです。そして胸の方に褥瘡ができた状態の中で、ずっと一年九ヶ月励ましながらお世話をしてくれたお医者様や看護師さんたちが、立ち上がった時に、みんなで拍手をして喜んでくれたということが谷口さんの手記の中にありますけれども、本当に一年九ヶ月ずとうつ伏せでいるということが、どういうことなのか想像ができません。これは、その谷口さんの写真です。



これは熱線の力を示す一つの事例です。この壁は元々コールタールが塗ってある真っ黒い壁だったんですけれども、手前にはしごが置いてあって、それに熱線が届いた時にはしごの部分だけが



影になって、それ以外の所のコールタールは全部溶けて落ちて、もとの白い壁に戻った中で、はしごの影のコールタールの部分だけが黒く残り、焼きついたという熱線の力を示すものです。人の影もついていますね。

これは14歳の火傷をした少女の写真です。

それから爆風、原爆は地上500mで炸裂していますから、それから同心円状にまちに広がっていったんですね。ですから500mのところから斜めに広がっていきますので、これは城山国民学校という今の城山小学校ですけれども、右上の方が斜めに校舎が壊れているのは、同心円状に斜めに力が働いたということを示しています。これは恐らく拡大すると、手前の方にはたくさんの人骨が写っている写真だと思います。

近くにあった三菱長崎製鋼所という、今ブリックホールというホールが建っている辺りですけれども、ここにあった製鋼所もバラバラになってしまいました。これは路面電車ですけれども、熱線と爆風でこんなふうになってしまったという写真です。

それから同時に火災もおきますので、県庁なども含めてあちこちで火災がおきて、まちは火災でも相当焼失しました。

これは長崎駅前の辺りで、ちょうど真ん中に教会が見えていますけれども、これは先ほどの浦上天主堂ではなくて、中町教会という教会で尖塔が残っています。あの尖塔を残したままで今再建して、戦前はレンガ色の赤い教会だったんですけれども、今は、真っ白の教会に生まれ変わっています。でも内側には、当時のレンガが残っています。

これは茶毘に付しているところですが、こうやって自分たちで家族を見つけて、そしてその家族を自分たちの手で茶毘に付するしかなかった。あちこちの学校などの庭でこういった光景が見られたそうです。中でも特に、被爆者の皆さん



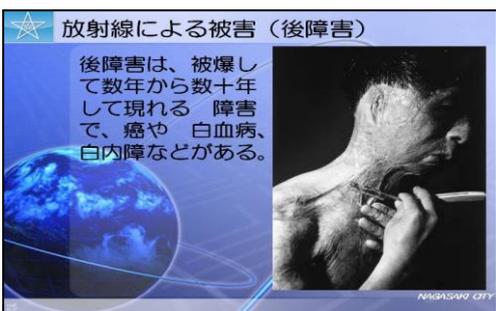
のお話で印象的なのは、当時のことを色々思い出す時に一番忘れられない、一番強く残っているのは、においだということです。これは結構数多くおられます。それは今日いらっしゃる皆さんの中にも、そういうご経験をお持ちの方もいらっしゃると思うんですけども、におい、とにかく人を焼くにおいがまじ中に充満して、そのにおいが忘れられないという方がたくさんおられます。とても悲しい光景の一つです。



これは新興善国民学校という今、市立図書館が建っている場所なんですけれども、そこが臨時の救護所になって、そこにたくさんの方が運び込まれて治療を受けました。当然、十分な薬ですとか医療器具もない中でたくさんの方がここで治療を受けました。もちろんたくさんの方が亡くなりました。今、図書館のコーナーの一つとして、当時の救護所の様子を再現したコーナーが残っています。



今、熱線と爆風のお話しをしましたけれども、もう一つ放射線、これが原爆、核兵器を特徴づけるものです。これは髪の毛が抜けた子どもたちですけれども、なぜ髪の毛が抜けるのか当然、当時の人たちには何も分かっていませんでした。



それから、今年の3. 11があつて放射線という言葉聞くようになって放射線って何だろう、放射能って何だろうということを考えるようになりました。放射線が人間の体の細胞を壊してしまい、その壊れた細胞がいつガン細胞に変質して、それが体全体を壊してしまうのかということも少しずつ分かってきています。この右側の写真は山口仙二さんという方のケロイドの様子を写した写真です。

放射線の力によって一生色んな影響を受けてしまう、与えてしまう、それが一番核兵器の怖いところです。



これはグラフです。一番左側の上の方に1945というのが上の方に書いていますが、この時に原爆が落ちて、それから白血病は10年くらい経ってから現れてきます。それから後に甲状腺ガン、乳ガン、肺ガン、胃ガン、大腸ガンと、要するに5年経って大丈夫だからずっと大丈夫だということでもなしに、その時に壊された細胞がずっと後

になって現れてくる。そのように、本当に人間を一生苦しめる兵器なわけです。なぜ、こういう兵器を人間が作る必要があるのか、ここまで残酷な兵器をなぜ人間が、人間の住んでいるまちの上に落とす必要があるのか、ということを私たちは考えないといけないと思います。昨年、3.11の原発の事故があって、本当にその事をたくさんの方が、ある意味理解する機会ができたのではないかと思います。原子力発電所の事故でたくさんの方が苦しんでいる時に、もし核兵器がわざと人間の住んでいるまちの上に落とされたとしたら、そのまちに私たちは助けに行くことが出来ない。そのまちにたくさんの方が亡くなって苦しんでいると分かっているけども、助けに行くことができない状態が起きる。そして、核の冬といわれる、自然環境を壊滅的に壊してしまう状態となり、それは自分の国だけではなくて全世界中に悪影響を及ぼす。そういうものをなぜ人間が作る必要があるのか、使う必要があるのかということも、もう一度考える必要があるということも、昨年の平和宣言でもそのことを訴えました。

世界で起きたこと

そして少し視野を広げて、長崎で起きたことを、同時に世界で起きていること、起きたことを考えてみたいと思います。もともとは1938年に核分裂するということが人間が発見し、そこで大きなエネルギーが生まれるということが発見したのですけれども、それが爆弾を作ろうという動きに具体的になったのは、1942年のアメリカの

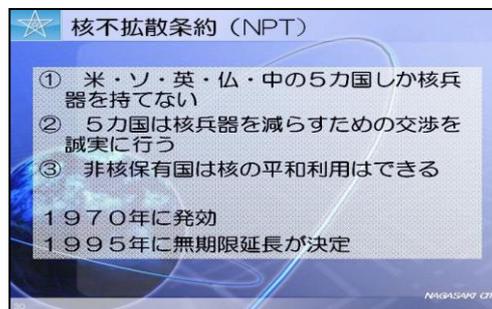
年	出来事
1938年	ウラン核分裂の発見
1942年 8月	マンハッタン計画が開始
1945年 7月	アメリカ、最初の核実験
1945年 8月 6日	広島に原爆投下
1945年 8月 9日	長崎に原爆投下

マンハッタン計画で動き出します。これは第二次世界大戦の最中ですから、ドイツが原爆を作るんじゃないかという恐れから、アメリカはそれに対抗して作らないといけないんじゃないかという事で、マンハッタン計画を作り出す訳です。この時にアインシュタインが、作った方がいいということを手紙に書いたことを戦後非常に後悔したということは、たくさんの皆さんがご存知ですけれども、そういう中で開発は始まります。そして実際に戦争が終わっていない1945年7月にアメリカが最初の核実験をします。実はこの前に、1945年の5月に既にドイツは降伏しています。しかもドイツは核兵器の開発はしていな

かったという事ですから、これをヨーロッパで使うという事はあり得なくなる訳です。その時に2発のプルトニウム型の原子爆弾、そして1発のウラン型の原子爆弾が開発され、ウラン型は先ほど申しましたように構造が簡単なので、これは確実に爆発できるだろう。ただプルトニウム型は構造が少し複雑なので、2個のうち1個を使って実験をします。そして、この実験で自分たちが思っていた想像していた以上に莫大な破壊力をもつということ、たくさんの人たちが確認をする訳です。そして、それを使うということに、しかも予告なしに使うということに、多くの科学者の反対がありました。しかし現実には、8月6日に広島で使われ、8月9日にはプルトニウム型が長崎で使われてしまう訳です。それは一つには、アメリカが戦後の世界の中で主導権を握ろうと、アメリカの力を見せつけるという意味もあったと言われていますが、実際にはアメリカが落とした後も色んな国がそれに負けじと作ってしまうという状況が起きてしまいます。ソ連・イギリス・フランスも中国も作るという中で核兵器を作る国がどんどん増えていく。しかももっと大きい力のある核兵器をもっとたくさん作ろう、あるいはもっと小型のものを作ろうと、あるいはもっと遠くに飛ぶものを作ろうと、そういう核軍拡競争がどんどん進んでいてしまいます。



その中で、さすがにこれはまずいということで、核不拡散条約NPT₄という、お聞きになったことがあると思いますけれども、条約が作られます。これは要するに、この状態で世界中の国々が核兵器を持つようになると、本当に危険な状態になるということで、さすがにそれは止めないといけないということで、条約が生まれる訳です。



内容の一つ目は、これは今持っている5つの国以外は持つてはいけないということです。これはある意味で完全に不平等条約な訳です。ただし、それに他の国々が賛成するためには、他にも条件がないといけないということで、二つ目として、持っている国は、これから確実に減らしていきますよということを約束するという。そして三つ目は核の平和利用、要するに原子力発電所として持つ、作るという権利はどの国も平等に持っているはずだから、それを保障しないとイケない。そういう三つの柱の条約を作る訳です。このことで、とりあえずこれ以上増えるのを防ごうというふうに考えます。



この条約、1970年に発効して5年毎に見直していたんですけども、1995年からは無期

限延長が決まるんです。けれども実際にはその間、核を持っている国というのは、きちんと減らそうとする努力をしなかった訳です。そうするとどういうことが起きるかという、それまでに持っていた国以外にも、それならNPTから外れて自分たちも作ろうという国が出てきて、核兵器を持つ国が今、インド、パキスタン、イスラエル、それから北朝鮮ですね。核兵器を持っていると思われる国が増えてきている訳ですね。そういう状況が現実には出てきています。



これは核兵器、核弾頭の数ですが、左から右にいきますけれども、一番ピークのところが1986年。ピークのところに最多の69,368発と書いてありますが、その坂を左に下ってきたところにちょっと谷底があります。そこに核不拡散条約(NPT)発効とありますが、そこから要するにずっと増え続けていく訳ですね。しかし、どんどん色んな国が持つようになっていって、これはもうさすがにまずいということで、また色んな話をしながら冷戦終結後は少しずつ、核兵器を持っているというだけで相当なお金がかかります。そういうことも含めて少しずつ減らす努力が始まって、核弾頭数というのは大きな流れでいうと減っていく傾向にあります。



しかし、これを今世界中で19,000発くらいの核兵器、核弾頭が存在すると言われています。ただし、問題はこれを減らすという努力はしつつも、それが自国の利益のためである限り、これをゼロにはしないということが根底にあるということなんです。核の抑止力という発想は厳然と今も続いています。

核兵器をなくす努力



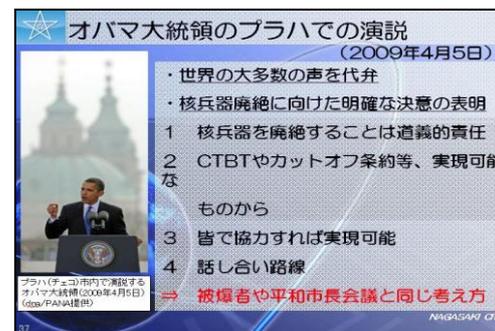
その一方、核兵器をなくす努力というのも、国際社会の中でゼロではありません。これは、まず1991年8月、カザフスタン、旧ソ連ですね。ソ連は色んな国に分裂をしましたが、ロシアを中心にですね、その中でカザフスタンもその中で、カザフスタンが独立をする頃に実験場を閉鎖して、そして核兵器を持たないという方向に進みました。リビアも2003年に核を開発していたという事実を認めて、廃棄に合意しました。南アフリカはもともと開発していたという事を、どこの国にも作ったという事

を言っていなかったんですけど、実は作っていたと発表すると同時に廃棄しました。そして先ほど言ったようにリビアが廃棄しました。こういう廃棄しようという流れも一つあります。

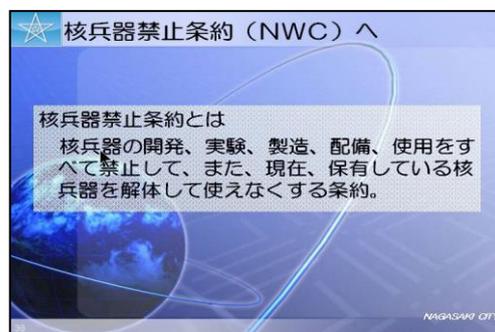
もう一つ、これは非核兵器地帯⁵という考え方なんですけれども、エリア毎に私たちのところでは、エリアとして核兵器を作らない、持たない、使わないといったようなことを決める動きもあります。これは世界の中で少しずつ広まっています。これは世界の中で少しずつ広まっています。特に真ん中に横線で赤道がありますけれども、この赤道から南の南半球に関しては、ほとんど全てが非核兵器地帯に入っています。その中で私たちは今、日本もそういう非核兵器地帯を作ろうという動きを、提案をし続けています。北半球の方は、赤のところは核保有国ですが、これだけ核保有国があるということです。



そういった中で、なくす努力の一つとして2009年の4月5日にアメリカのオバマ大統領がプラハで、核兵器のない世界を目指そうということをスピーチしました。私が生きている間にはできないかも知れないけれど、核兵器のない世界をめざすということを宣言するし、また、唯一核兵器を実際に使った国として行動する道義的責任があるということも、オバマ大統領がこの時に述べた訳です。そして、そこから核兵器を減らしていこうという具体的な色んな動きも少しずつ生まれて、流れができてつあるという状況です。ただし、その流れは決してどんどんと前に進んでいる状況ではなくて、あちこちから叩かれ叩かれ求められ求められながら、いやいや少しずつ自分たちのペースで進めていて、それを決して国際社会が求めるペースづくりに乗ろうとしないというのが今の現状でもあります。



そういう中で核兵器をなくすために、具体的に条約が必要になってきますので、どんなことをすればいいのかという中で、核兵器禁止条約⁶というのが、今、ある意味ではみんなが目指している目標として、具体的に上がってきています。これは核兵器の開発、実験、製造、配備、使用、全てを禁止しようとする、世界中が参画する条約にしていこうということで、これまでに具体的にいくつかのタイプの提案がされています。広島・長崎もこれに向けて動こうとしていますし、また、国際社会の中にもこれを具体的に条約にしていこうという動きを見せている国々が



あります。

こういった核兵器をなくそうとする努力というのは、国レベルでもいくつかの国を中心になされているんです。核不拡散条約NPTですけれども、5年毎に会議をするんですね、見直しの会議を。次は2015年なんです。2015年の会議に向けて今年から準備の会議が始まったんですけれど、今年の5月にウィーンで開かれたその会議に行きました。その時に、スイスとかノルウェーが核兵器の非人道性というところからもう1回、核兵器をゼロにする方法を組み立て直そうとする共同声明を発表したんです。16カ国が表明したんですけれども、その中に日本の名前がなかったんです。それで、なぜ核兵器の非人道性、一番日本が解っているはずなのに、その共同声明の中になぜ日本が入っていないのか、という話をした時にそれは日本政府に話がなかったんだ、参加しないかという誘いがなかったんだという話がありました。それは参加の呼びかけがないこと自体が問題であって、日本があてにされていない、要するにそれに賛成するだろうと思われていないということが問題じゃないか、ということをお私たちは言った訳です。

先週ですが、今度はニューヨークで開かれている国連の軍縮会議で再度ほとんど同じ文案の共同提案をしようということで、ノルウェー、スイスなどを中心に共同声明の提案がありました。今度は34カ国が賛成をしたんですが、今度は日本に声がかかりました。かかりましたけれど賛同しませんでした。これは本当に、もう不可解、理解不能の姿勢な訳ですね。なぜ被爆国であって一番そのことが解っている日本が賛同しないのか、共同声明というのは核兵器の非人道性というところから考え直そうということで、非人道的な核兵器というのは禁止しなければならない。そのために、将来的に非合法化していくという努力をしていこうという内容の共同声明な訳ですけれども、その非合法化するところが、今日本が核兵器に守ってもらっている抑止力の下にいる、核の傘の中にいるということと矛盾するから賛成できないという話なんですけれど、その文章自体は今すぐ明日から非合法化にしようということではなくて、禁止していこう、非合法化にしていこうと努力をしていこうという共同声明なんです。それに賛成ができなければ、どうやって核兵器をゼロにするんだ、核兵器のない世界を作ろう、核兵器の廃絶ということを国連に提案しながら、実際にそういう具体的な提案がされると、努力しようとするだけでも腰を引いてしまう、日本政府の態度というのはどういうものなんだ、ということをお被爆地で非常に残念に思いますし、また、これまで私たちがずっと言ってきたことがこんなにも通じてないんだということをお、遠くの政府に通じて、なぜ自分たちの政府には通じないんだらうということをお非常にくやしい思いをしています。

これはイデオロギーであつたり、あるいは政府と喧嘩しようとか、そういうことでは全くなくて、日本政府とともに核兵器をなくそうという動きを作っていきたい、被爆国として被爆地として、まず日本がリーダーシップをしっかりとってやっていけるじゃないかという部分なのに、一番腰が引けた態度をとっているということに非常にくやしい思いをしています。

核兵器をなくすために私たちができること

そういう状況がある訳ですけれども、核兵器をなくすとかいうと何かすごく大きいテーマで、国連の話が出ると手の届かない話のような気がしますけれども、では、私たちには何ができるのかということを考えてみたいと思います。

まず一つ目に私たちができること、私たちというのは長崎や広島という意味じゃないですね、私たち人間に何ができるのかということですから、まずできることは知ることだと思っています。これが一番大事で、知らないことで核兵器が大きな爆弾だと思っている人が結構世界中にいて、2010年のNPT再検討会議に行った時に、会議の議長と話したんですけど、実は世界中からは被爆者、原爆を体験した人が生き残っている人がまだいるのかという質問を受けると、それぐらい知られていないんだということをカバクチュランという議長がおっしゃっていました。そういう状態の中で色んな議論をしても議論がかみ合うはずはないし、その意味で、まず知ること、知らせることということが基本だというふうに思っています。これは被爆者の下平作江さんがお話しをしてくれているところ



ですけれども、やはり被爆者の方のお話、今日、岡邊さんお見えですけれども、被爆者の会の皆さんもお見えですけれども、被爆者の方のお話が圧倒的に伝える力、知らせるという意味では伝える力があります。そういう皆さんから直接お話しを聞くというのは、核兵器、原爆が何をするのかというのを知る意味では、一番いい方法だと思います。

ただ、被爆者の皆さんはどんどん高齢化をしています。その意味では、そういう直接聞くという機会をできるだけたくさん持たないといけないし、また同時にそれをどうやって残していくのかということも非常に重要な時期に来ています。

これはですね、伝えるという意味で、最近ここ数年長崎で見直されている紙芝居なんですけど、紙芝居って戦後のことをご存知の方は餛の話とつながってするので、紙芝居って餛とワンセットなのかという感じはあるんですけど、そうじゃなくて今の子どもたちにとっても、すごくいいツールなんだということが長崎の中で広がっています。きっかけは、吉田勝二さんという被爆者の方が、中学校で体験を話してく



ださったんです。そしたら、それを聞いた中学生たちが吉田さんのお話しを絵にしたいと言ったんです。みんなで手分けして絵に描いたんです。その絵があまりにも素晴らしかったので、校長先生がそれを本にしてあげようと言って本にしたんです。本にしたら、これはひょっとして紙芝居にしたら、自分たち中学生が近くの小学校に行って話してあげるこ

とができる、だから紙芝居にしてみようという話になって、紙芝居にしたんです。そして、それを見た吉田勝二さんが、そもそも最初に話した吉田勝二さんが「これよかばい」と言って、自分が体験を話すときに、まず紙芝居をしてもらって、そしてその後、自分の話をするようになった。そうすると、まだ伝わらなかった人たちにも、小さい子どもたちにも伝わったりとかして、吉田さんの被爆体験談の中では定番になっていったんですけど、紙芝居っていうのは、ひょっとすると結構今の時代にも有効な方法じゃないかということで、長崎で平和の紙芝居コンクールをやったんです。その時に、これが最優秀になった被爆体験の作品なんですけれども、昨日、中川市長さんにも1セットプレゼントさせていただきましたけれども、非核宣言自治体協議会⁸の仲間ですので、必要であれば1セットと言わず何セットも可能です。もし使えたら是非使っていただきたいと思います。

こういう方法から入る、興味をもつ。要するに、伝えるというのは子どもたちの心の中に種を植えるようなものなので、その時にそれがどういう行動に移るとか爆発的に何かが変わるとか、そういうものでなくても種を植えるということが大事で、何かのキッカケでああそう言えばこんなお話聞いたことあるということで、何かの行動のキッカケになったりする、その種を植えるという意味では、紙芝居というのは非常にいいツールかも知れません。

それから原爆展をするというと、広島と長崎が主催してやるという感じが主で、うちの公民館でも何かの記念事業をする時に、原爆展をやったらどうだろうかという企画が出たとしても、簡単に手が出せないテーマかも知れないですけども、そういう皆さんのために簡単に使えるように、ミニミニ原爆展というキットを作ったんですね。



20枚ワンセット。広島・長崎の様子を分かりやすい写真にしているんですけども、これを非核宣言自治体協議会の仲間の都市には、希望に応じてお分けしており、あるいはホームページから直接ダウンロードして印刷することもできますし、そういう形でみんなが色々な所で動けるようなツールを提供しています。

海外原爆展も色々な所で回数を増やし続けてい

ます。

それから平和案内人、これは被爆者の方たちがだんだん少なくなっていくので、被爆の体験のない方も勉強して、こういう被爆の痕跡の場所を案内したりする仕組みを作って、平和案内人の皆さんが子どもたちを案内しているんです。最初の頃は、一部の被爆者の皆さんからは体験がないのに伝えきれないだろうというお話がありました。その中で一期生



の皆さんが本当によく頑張って勉強して、今もそうなんですけれども、一生懸命伝えてくれている様子を見て、皆さん応援団になりました。被爆者の皆さんの力も借りながら勉強して平和案内人を務めています。若い方もたくさんおられます。

青少年ピースフォーラムというのは、8月9日前後に長崎に非核宣言自治体協議会の会員都市を中心に子どもたちを送ってくれるんですね。その子どもたちは、小学生、中学生、高校生ぐらいまでの子どもたちなのですが、長崎の高校生、大学生などのちょっとお兄ちゃんお姉ちゃんたちがお世話をして、平和祈念式典に参加したり、車座になって自分の平和についての考え方を話したりだとか、色んな経験をしてもらう場を作っています。これは種を植える作業です。

二つ目に、私たちにできることは、声を出すことということです。考えているだけではなくてチャンスがあったら、私は核兵器はいらないと思うということを出すことということです。とても大事なことです。これは高校生1万人署名の子たちの写真なんですけれども、高校生の子どもたちが毎週休みの日に署名活動を行っているんですね。もう14年くらい続いているんですが、今年は今まで一番多かったんですが、15万人を超える署名が集まって、累計でいうと84万数千くらいです。毎年集まった署名をジュネーブにある国連の欧州本部に持って行くんですけど、今年は84万くらいなので、来年は100万を超えるんじゃないかと言われています。国連もちゃんと迎えてくれて、先日は外務省からも感謝状もらったんですけど、この子どもたちがやり始めた時は、子どもが、高校生がやるんですか、みたいところから始まりました。実際に高校生の子子どもたちが集まって自分たちで平和宣言を作ろうということになって、自分たちの高校生の平和宣言を作ったんですが、最初なので、お世話した人たちも不安で、下書きを書いてあげて、こんな感じで作ってみたいいいかも知れないよみたいなことを示唆した訳ですね。子どもたちはそれを見て、少し変えてもいいですかと言ったので、あぁいいですよ、と言ってアドバイ



そして、その後子どもたちが話し合って作ったんですけども、でき上がった平和宣言文には最初に書いた下書きの言葉は一つもなかった、というぐらい子どもたちは自分たちで考えて作ることができる訳です。すごくやっぱり自信を持ってそれからずっと続いているんですけども、子どもたち、この高校生たちの使っている合言葉が「微力だけど無力じゃない」という言葉が合言葉です。自分たちの力は、ものすごく小さいけれども、でもゼロではないから集まれば大きな力になるし、世界中の人と力を合わせれば、もっと変えることができるということを表した言葉なんですけれども、今はその言葉も、どちらかというと大人に対しても励ましの言葉になっていて、「微力だけど無力じゃない」という言葉は、長崎全体の合言葉になってきています。

高校生も別に長崎の子どもだけじゃなくて、全国に広がってしまっていて、今年はブラジルの子どもたちも2人参加してくれました。

それから生協など、こういう平和の集まりを開いたりするグループもたくさんおられます。ですから、声を出すというパターンも色々なパターンがありますので、新しいパターンがどんどん生まれて行くといいなというふうに思っています。

三つ目は、つながることという意味で、微力を大きな力にするためにはつながらないといけないということです。平和市長会議は今、大きな勢力になってしまっていて、昭和57年にできて、ちょうど30年になるんですけど、今、世界の5400以上の都市が参加をしていて、その下に住んでる市民の数は10億人というふうに言われています。そういう意味で、この平和市長会議の動きというのは、国連の中でもしっかりNGO10登録されて、認められているくらい大きな動きになってきています。中川市長さんも入られていますし、そういう首長さんが参加することで、少しずつ影響を世界に与えて行くことができるということですね。

これは参加都市数で、この10年間で急激に伸びているということなんです。これは色々な力がありますけれども、前広島市長の秋葉市長の積極的な動きが非常に大きな貢献をしています。

それから、平和市長会議はどちらかというと、世界に向けて集まりましようと言っているんですけども、もう一つは日本国内のまちの集まりとして、日本非核宣言自治体協議

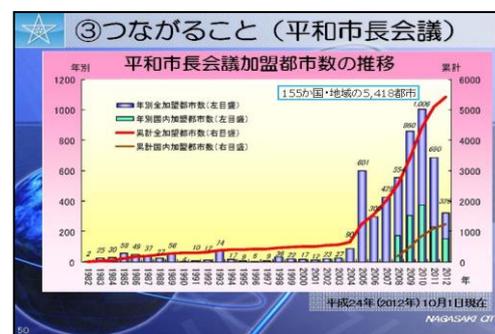


③つながること (平和市長会議)

平和市長会議
設立 1982年(昭和57年)
加盟数 平成24年(2012年)10月1日現在

区域	国・地域	都市数
アジア	30	1,686
オセアニア	9	127
アフリカ	44	332
ヨーロッパ	45	2,401
北アメリカ	3	293
ラテンアメリカ・カリブ海地域	24	579
	155	5,418

内、国内加盟状況 1,239都市

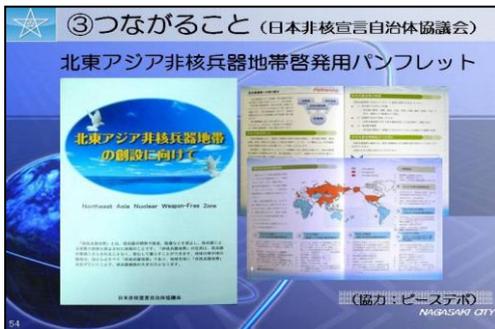




会というのがあります。これは宝塚市もそうですが、非核宣言、平和宣言をしたまちというのは、実はすごく多くて、日本中の自治体の9割近くが宣言をしています。ところが宣言はしたけれど、それだけという所も結構多くて、宣言はしたけれど何も行動できていない、あるいは何をしたらいいのか分からないという所が結構あるので、それではメニューを提示したり、色んな事例を紹介したりといったことをしています。先程のミニミニ原爆展のツールであったり、紙芝居であったり、親子記者であったり、いろんな事を提案しているのがこの非核協の活動です。



その中の一つとして、先程ちょっと申し上げた北東アジア非核兵器地帯を作ろうというのも非核協から提案しています。日本と韓国、北朝鮮の三つの国に核兵器が存在せず、近隣の中国、ロシア、アメリカは核攻撃をしないと約束をするという、スリープラススリーという発想ですけれども、三つの国を三つの国からは絶対、攻撃しないという



ような枠組みの中で非核兵器地帯というのを作れないかということ进行研究していますし、外務省にもぜひ研究してほしいと言っています。これは核の傘の中にいるところから抜け出て、非核の傘の下に移ろうという、仕組みを変えようという提案なんです。長崎でも広島でも海外でも体験を色々語る時に、あなたたちは核兵器は

に守られているじゃないかというお話が出てきます。その時に、それを被爆者の人たちも非常にどうにかできないかという中で、じゃあ非核の傘という発想があるよというような取組みを今しています。

親子記者、これは全国の非核協の仲間のまちに住んでいる親子が応募して、8月9日前後に長崎に来て取材をしてくれるんですけども、結構ですね、国連から来た外国の方であったり、IAEAの事務局長であったり、色んな方にインタビューするんです。小学校何年生の子どもたちが。それを皆さん真剣に答えてくれて、それを新聞にして出すんですけども、新聞にする時には長崎



市内の編集とかイラストを書いたりする人が手伝ってくれて新聞にするんです。これもすごく面白い活動であり、こういうのがありますよ、という平和活動のメニューとして提示しています。

それから今日、記念植樹した被爆クスノキ。これは右上が山王神社の鳥居が立っている向こうにちょっと黒い木が見えますけれど、あれが被爆クスノキで原爆が落ちたあとに真っ黒になって、焼け野原に立っていた木なんですね。当然まち中が、さっき見たように何もなくなっていますから、この木も死んでる。70年は草木も生えないと言われていた地獄だったんですけども、1年も経

たない内に、あのクスノキから新しい芽が出てくるんです。そして、それは新しい生命を感じさせて、長崎の人たちに非常に大きな希望を与えてくれるんです。70年ダメだと言われていたものが、こんなふうに青いきれいな芽が出てるじゃないかということで希望を与えてくれたクスノキ。私たちにとって大事な大事な木なんですけれども、今日、その二世を、この宝塚の地に植えていただいたことを本当に心から感謝したいと思います。

それから、私たちにできること四つ目に、平和なまちを作ることって上げているんですけども、これがとても大事なことで、私が最後にお伝えしたいことなんですけれども、平和なまち、要するに戦争がないってということだけではなく、みんなができることを少しずつ出し合って暮らしやすいまちを作る。まず、ひな形を自分のまちから作ろうというまちづくりの取り組みというのは、私たちにできることの基本だというふうに思います。その意味で一つは、こういう姉妹都市との交流を通して、外国に友達を作るっていうことは、それが実は世界中に、友達の関係が張り巡らされて、大きな平和のネットになるということなんです。

それから、ハローイングリッシュ活動というのは、これは国際理解教育です。要するに日本の子どもたちにも、色んな国があって、そこでは色々なことが起きていて戦争の下にいる子どもたちもいる。貧困の中にいる子どもたちもいる。その中で、自分たち日本の子どもたちが内向きにならないようにしていくということを学ぶことが大事なことだと思います。留学生と交流するということもそうです。

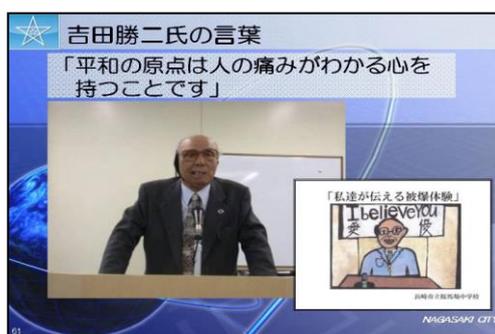


それから世界宗教者平和会議、これは長崎ではすごく目立っている活動の一つでもあるんですけれども、要するに色々な宗教の皆さんが一緒になって8月8日の夜にお祈りを捧げたり、普段から一緒になって平和のための活動をしています。宗派を全く超えています。これはとても大事なことで、宗教で戦争をする国が未だにある中で、宗教を超えて一緒に平和のためにという動きを作っています。これも自分たちのまちからしっかり作っていかうということで、宗教者会議の皆さんと一緒に活動しています。

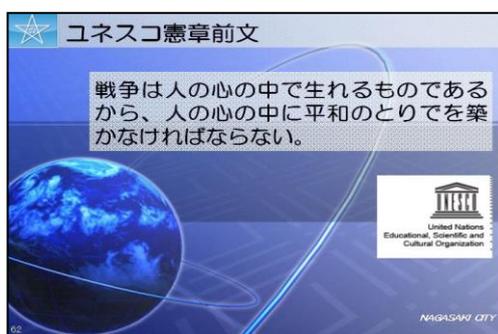


それから最後に、そういうふう色々なことができるんですが、平和っていうのは、決して戦争しないことではなくて、先程申し上げたように平和なまちを作るとい

うことです。そういう意味では、吉田勝二さん、先程紙芝居の話をした時に登場した方ですけれども、吉田さんは昨年4月1日に亡くなりましたけれど、私の友達でもありました。吉田さんはいつも紙芝居の最後に、平和の原点は人の痛みが分かる心を持つことです、というふうにおっしゃっていました。原爆ですずっと動けなくて、顔も傷ついて、外に出たくない、出たくないというところ



をお母さんにずっと励まされて、ずっと頑張って外に出て行ってということを繰り返す中で、子どもたちから色々いじめられたみたいなことをずっと経験して来た中で、吉田さんが掴んだものっていうのを話してくれていた紙芝居です。これもぜひ今度、お贈りさせていただきたいと思います。

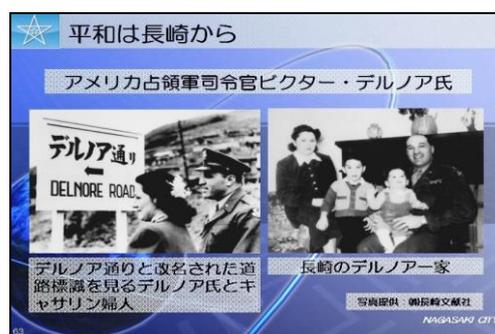


そして、ユネスコ¹⁾憲章の前文にあるこの言葉もそれを表しています。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」。これはとても大事な言葉で、戦争というものは、突然誰かが作るものではなくて、心の中から生まれるものだ。だから心が一番大事なんだということ。戦争を起こさないようにする心っていうのはみんなで育み合

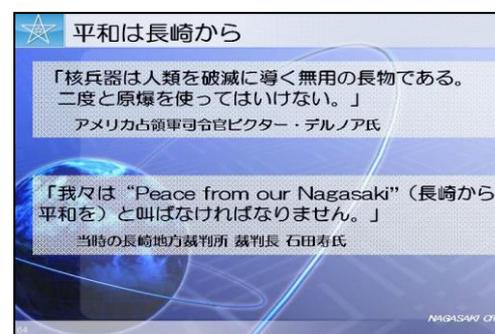
うことが大事なんだということです。

平和は長崎から

最後にですね。平和は長崎からということで、アメリカの占領軍司令官のビクター・デルノアさんの話をさせていただいて私の話を終わりにします。デルノアさんという方は、原爆が落ちて次の年、昭和21年に長崎にやって来るんですが、レバノン系のアメリカ人で、民主主義と自由をととても大事にされる方で、日本に原爆を落とした国の代表として長崎に来る訳ですから、とても厳しい状況の中で引き受けて来られた方なんです。日本人にも大変敬意を払って平等に接しておられたということで、長崎の人たちととても信頼関係を築くんですね。娘さんが、日本に来てから生まれるんですが、長崎の教会で洗礼を受けたりして、長崎の人に非常に親しまれていた方です。デルノア通りという通りを、この方が住んでいたところの道に長崎の人たちが付けるんですね。この人が3年位たって、長崎を離れるんですが、その間に長崎の人たちが初めての平和祈念式典を開きたいという希望を言った時に、この人が



許可をしてくれるんですね。そして平和祈念式典が開かれるんですけど、その時に、この人がメッセージを寄せてくれているんです。そのメッセージというのはある意味では、アメリカの本国の方針とは違うメッセージを、デルノアさんという方は寄せてくれているんですね。「核兵器は人類を破滅に導く無用の長物である。二度と原爆を使ってはいけない。あの日の声を忘れないことが長崎の皆さんの使命です。あの日死んでいった人たちの思いを伝えていくことが、生きている私たちの使命なのです。皆さん、亡くなった人たちに決してその死を無駄にしないと約束しようではありませんか。」二度と



原爆を使ってはいけないという内容が入ったメッセージをですね、寄せている。こういう方がいらっしやっただんです。ある裁判官の娘さんが被爆されて、体験を書いた本を出そうとする時に、当時は、GHQ₁₃が厳しい出版規制をひいていたので許可が下りなかったんですね。デルノアさんは、それを何とかできないかということで、ずっと交渉したんですが、駄目だったんですね。そのことがあってデルノアさんが長崎を離任するという時に、長崎の市民が集まって送別会を開きました。その時に、石田さんという方が代表でお別れの言葉を言うんですけども、その中の一部にこんなお話があるんです。「広島で当時、『ノーモア・ヒロシマ』っていう言葉が生まれてよく使われています。私は少し違うような気がするんです。私は、『ピース・フロム・アワ・ナガサキ』という言葉を使いたい。」というふうにおっしゃるんですね。私は、その言葉を聞いて、とても感動したんです。それは先

程言ったように、私たちのまちがまず平和になろうということ、私たちのまちから平和を作っていこう。私たちのまちから伝えていこうということ、石田さんは言ってくれているんだと思うんですね。まず、私たちのまちがどんなふうなまちになったらいいのだろうか。みんなで考えて、力を合わせて作っていく、そういうまちであるということ。それから、「ピース・フロム・アワ・ナガサキ」。今はよく「ピース・フロム・長崎」という言い方をするんですけども、「ピース・フロム・長崎」という言葉であれば、例えば、「ピース・フロム・宝塚」に置き換えることもできるじゃないか。「ノーモア」であれば、そこを、ヒロシマとナガサキしかできないかも知れないけれど、「ピース・フロム」であれば、世界中どここのまちでも使うことができる。それをやっていきましょうよ、ということ、それこそが長崎からのメッセージだということ、この石田さんは私たちに残してくれたような気がするんですね。ですから、今日の、この私がいただいた時間のお話のタイトルを、「ピース・フロム・長崎」そして「ピース・フロム・宝塚」とさせていただきます。



今日、植えていただきました、あのクスノキが一年一年大きくなって、そして何でここにあるのという話をした時に、市民の皆さんが、これはね、長崎でこんなことがあって、その思い、それは長崎でなくても、広島でなくても、みんな同じだから、このまちでも、宝塚でも平和を大事にしようね、作っていこうねということ、みんなで確かめ合うために、この場所に植えたんだよということをみんながこれからも話してくれる、きっかけを作ってくれる木になってくれればいいなと思っています。

この「ピース・フロム・宝塚」という言葉を、私からの一番強い思いを込めた宝塚の皆さんへのメッセージとさせていただきます、少し時間をオーバーしてしまいましたけれども、私からの拙いお話とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(拍手)



講演終了後の花束贈呈



【用語説明】

禁教令¹ ……ある特定の宗教の信仰や布教を禁止する命令や法令のこと。特にキリスト教の信仰や布教を禁じたものを指し、中でも江戸時代に幕府が出したキリスト教を禁ずる法令を指すことが多い。

核の冬² ……核戦争の後に起こるとされる全地球的な気温低下現象。都市への核攻撃による大火災で生じる大量の煤煙・粉塵で太陽光が遮られ、地表が氷点下の状態になるというもの。

マンハッタン計画³ ……第2次世界大戦中にアメリカによって行われた原爆製造計画のこと。計画の名は、当初の本部がニューヨーク・マンハッタンに置かれていたことによる。

核不拡散条約NPT⁴ ……核兵器の不拡散に関する条約(Nuclear Non-Proliferation Treaty 略称NPT)の日本語略で、核拡散防止条約とも呼ばれる。アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国を核兵器国と定め、核兵器国以外への核兵器の拡散を防止するとともに、各締約国には核軍縮に向けた誠実な交渉を義務付けている。また、原子力の平和利用を各締約国の奪い得ない権利と定める条約。1970年3月に発効し、2011年2月現在の締約国は190ヶ国。

非核兵器地帯⁵ ……対象地域内での核兵器の開発、実験、保有、配備、使用を禁止する地域のこと。非核兵器地帯条約では、核兵器の開発、実験、保有、配備、使用を禁止するほか核兵器保有国による対象地域内への核兵器による攻撃や威嚇を禁止する内容も含まれる。

核兵器禁止条約⁶ ……核兵器禁止条約(Nuclear Weapons Convention 略称NWC)は核兵器の全廃と根絶を目的として起草された国際条約案。「モデル核兵器禁止条約」あるいは「核兵器の開発、実験、製造、備蓄、移譲、使用および威嚇としての使用の禁止ならびにその廃絶に関する条約案」とも呼ばれる。

核の傘⁷ ……核兵器保有国がその核兵器を背景に自国や同盟国の安全を保障すること。また、日本が核兵器を持たなくても、安全保障条約を締結しているアメリカの核兵器によって核の抑止力が得られるという考え方。

非核宣言自治体協議会⁸ ……正式名称は日本非核宣言自治体協議会。略称は非核協。昭和59年(1984年)に広島県府中町で設立。設立の趣旨は、「核戦争による人類絶滅の危機から、住民一人ひとりの生命とくらしを守り、現在および未来の国民のために、世界恒久平和の実現に寄与することが自治体に課せられた重大な使命である。宣言自治体が互いに手を結び合い、この地球上から核兵器が姿を消す日まで、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を世界の自治体に呼びかけ、その輪を広げるために努力する」としている。

2014年2月1日現在、全国の298自治体により組織され、さまざまな平

和事業などを通して設立の趣旨の実現に努力している。宝塚市は、平成21年（2009年）に加盟。

平和市長会議⁹……1982年、当時の荒木武広島市長と本島等長崎市長の呼びかけで設立された国際的な自治体組織。世界の都市の緊密な連携を築くことにより核兵器の廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起し、核兵器廃絶を実現させるとともに、人類の共存を脅かす飢餓・貧困・難民・人権などの諸問題の解決、さらには環境保護のために努力することにより世界の恒久平和の実現を図ることを目的としている。2013年8月から国内的には「平和首長会議」に名称を変更している。2014年2月1日現在、世界の5,895都市が加盟。

NGO₁₀ ……Non-Governmental Organization の略で、もともとは国連と政府以外の民間団体との協力関係について定めた国連憲章の中で使われている用語。国際協力に携わる「非政府組織」や「民間団体」のことを意味する。

IAEA₁₁ ……International Atomic Energy Agency の略で、国際原子力機関のこと。国際連合傘下の自治機関で、原子力の平和利用を促進し軍事転用されないための保障措置を実施する国際機関。

ユネスコ₁₂ ……国際連合教育科学文化機関（United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization 略称 UNESCO。日本語では「ユネスコ」と称する。）教育や文化の振興を通じて、戦争の悲劇を繰り返さないとの理念により設立。

GHQ₁₃ ……General Headquarters の略で、総司令部の意味。第2次世界大戦後の日本で連合軍最高司令官（Supreme Commander for the Allied Power, 略称 SCAP（スキヤップ））の総司令部を指して用いられる。



非核平和都市宣言

青くすみきった空、清らかな武庫川の流れ、緑あふれる六甲・長尾の山々……。

この素晴らしい自然と明るくおだやかな暮らしは宝塚市民すべての願いです。

このような私たちの願いに反し、世界では依然として、人類同士の悲しむべき争いが絶えず、しかも地球上の全生命を滅ぼすことのできる核兵器が蓄積されてきました。

しかし、人類の平和への切実な願いが全世界に高まり、大きなうねりとなって、ようやく戦略核兵器の縮小や、各地域の紛争解決への明るい兆しが見えようとしています。

私たちは、このようなときにこそ、戦争を、そして核兵器をなくし、世界の恒久平和を強く願わずにはられません。

ここに、宝塚市は憲法の平和精神に基づき、恐るべき核兵器の廃絶を願い、永遠の平和社会を築くことを誓い、「非核平和都市」とすることを宣言します。

平成元年（1989年）3月7日

宝 塚 市



平和モニュメント「火の鳥」像
手塚治虫記念館前



植樹された「被爆クスノキ二世」
末広中央公園内

いま、語りつぐ 平和への願い IX
平成26年(2014年)3月発行
編集・発行 宝塚市総務部人権平和室人権男女共同参画課
宝塚市東洋町1-1 電話 0797-71-1141(代表)